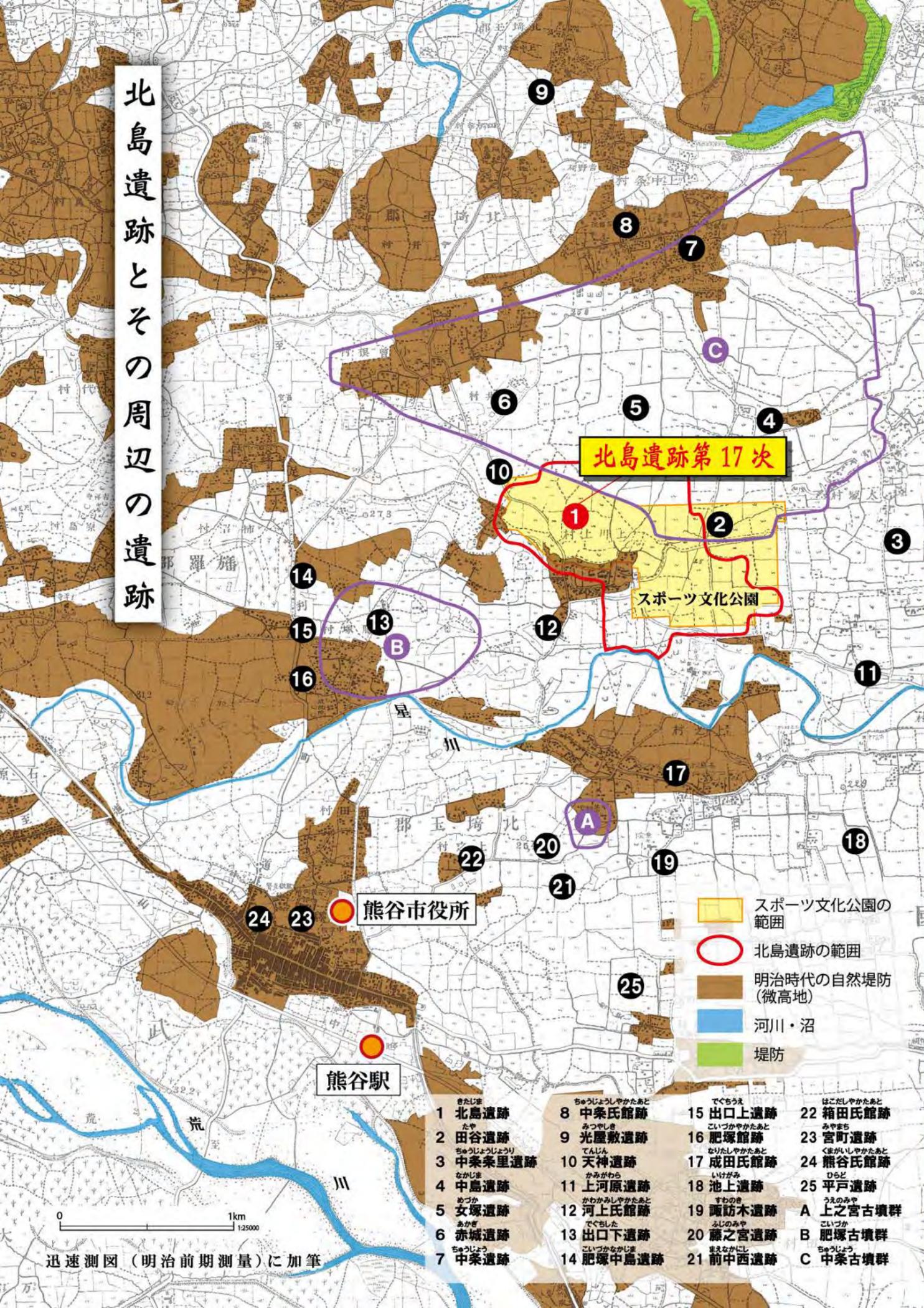


北島遺跡とその周辺の遺跡



北 島 遺 跡

— 県北屈指の古代集落 —

北島遺跡は、JR熊谷駅の北東 3 km、荒川の支流である星川の左岸に延びる自然堤防の上であり、熊谷スポーツ文化公園を中心に広がる遺跡です。

昭和 60 年 (1985) 以来、公園整備等の発掘調査にもなって、弥生時代から古代にかけての大規模なムラや水田の跡が発見されています。

現在実施している第 17 次調査では、古墳時代後期 (約 1,400 年前) と平安時代 (約 1,200 年前) の竪穴住居跡などが多数発見され、当時の人々が使っていた土器などの生活道具が出土しました。

北島遺跡 (第17次調査) 全体図

平成 28 年 12 月 1 日現在



ほったてばしらたてものあと
掘立柱建物跡
規則正しい間隔で穴を掘り、柱を立てる平地式または高床式の建物跡です。(右の画像はイメージ図)

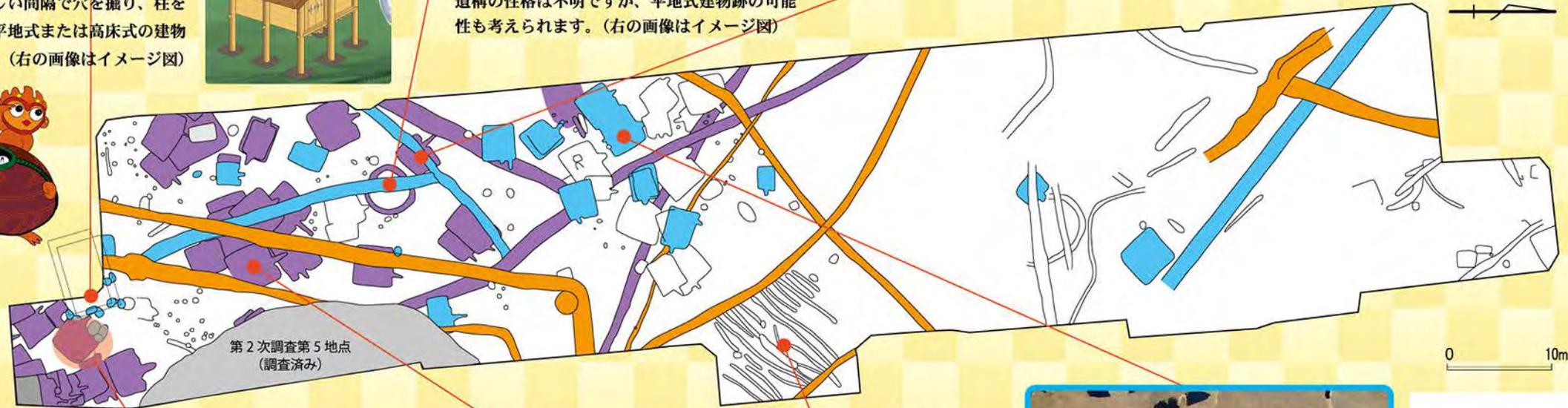


えんけいしゅうこうじょういこう
古墳時代後期の円形周溝状遺構

周囲を円形に掘り込み、中央部分は平らです。遺構の性格は不明ですが、平地式建物跡の可能性も考えられます。(右の画像はイメージ図)



古墳時代後期 (7 世紀) の竪穴住居跡と土器が出土したようす (○印部分)



0 10m

- 古墳時代後期の遺構
- 平安時代の遺構
- 中近世の遺構



古墳時代後期の土器がまとまって出土 (土器集中区)



古墳時代後期の竪穴住居跡



平安時代 (9 世紀) の竪穴住居跡
煮炊きをするカマドや、貯蔵用の穴、屋根を支えた柱穴が見つっています。(右の画像はイメージ図)

